

平成23年度普通交付税並びに臨時財政対策債について

平成23年度の普通交付税並びに、臨時財政対策債の発行可能額が決定になりましたので、ご報告致します。

普通交付税につきましては、2,060,597千円が交付決定になりました。前年と比較し、11,463千円、0.6%の減であります。

臨時財政対策債は、150,799千円が発行可能額となり、前年と比較し、80,484千円、34.8%の減となりました。

普通交付税と臨時財政対策債を合わせて2,211,396千円となり、前年と比較し、91,947千円、4.0%の減となります。

一方、平成23年度当初予算と比較しますと、普通交付税は90,597千円の増、臨時財政対策債は29,201千円が減となり、合わせると全体で61,396千円の増であります。

前年と比較し減額された大きな要因は、算定の一つの単位である「人口」を平成17年国勢調査人口から平成22年国勢調査速報値に置き換えたために、人口減の影響を受け減額となったものでございます。

遠別町地域公共交通会議の発足について

生活バス路線の上遠別線及び清川線について、高齢化等に伴う地域の実情に合った路線の実現を協議するため、8月3日に遠別町地域公共交通会議を発足いたしました。

会議には、北海道運輸局旭川運輸支局長にも出席頂き、関係地区駐在員など19名に委嘱状を交付し、会長に副町長、職務代理者に連合町内会守谷会長が選任されました。

議事では、事務局から会議の目的や設置要綱の説明を行い、ご理解を頂きました。

さらに、北海道運輸局の担当専門官から、地域公共交通確保維持改善事業について説明を受けました。

補助を受けるためには、今年12月末までに3ケ年の運行計画を国へ提出することにより、平成24年4月から9月まで実証実験運行、平成24年10月から本格運行、いずれも国からバス事業者へ対し運行赤字の1/2以内の補助が可能となるとのことでした。

但し金額については、実績ではなく、事前査定による予想収支の差額に対する1/2以内が補助されることとなります。

最後に事務局から、今後のスケジュール等を説明し、具体的な運行内容については11月に開催予定の第2回会議で協議することが決定されました。

今後、平成24年4月からの新たな運行形態による実証実験運行を経て、平成24年10月からの本格運行へ向け準備を進めていく予定であります。

平成 23 年 9 月定例議会行政報告

経 済 課

安愚楽牧場の経営破綻による影響について

8 月 1 日以来報道がなされている安愚楽牧場の経営破綻により、天塩町にある牧場に当町の方が雇用されていないか調査させた結果を報告いたします。

天塩町に確認したところ雇用者名簿等の提出がまだなく、雇用者名がわからない状況であります。しかし、名簿以外の情報より当町の 2 名の方が雇用されていることが確認されております。

また、当町の牧場で安愚楽牧場から預託を受けている方は、現在も過去にもございません。

なお、今後も情報収集及び確認をしていきたいと考えております。

平成23年 9月議会定例会行政報告

教育委員会

公立高等学校配置計画案に対する対応について

北海道教育委員会は、平成24年度から平成26年度までの公立高等学校配置計画案を提示し、7月13日に留萌市において地域別検討協議会を開催いたしました。

遠別農業高等学校は、今年度21名の入学生を確保しましたので、この配置計画案の中では、再編整備の対象校にはなりませんでした。

従前の配置計画のとおり、変更はありませんでしたが、中卒者数は、その後も総じて減少傾向にあり、再編整備の対象となる可能性が残り、依然として学校の存続は、厳しい状況にあることに変わりありません。今後とも、より積極的な生徒募集活動が必要であります。

遠別農業高等学校では、一昨年度から教職員が中心となり、学校活性化プロジェクトが立ち上げられ、魅力ある学校づくりを進めています。

学校訪問による生徒募集活動だけでなく、遠別農業高等学校の魅力を全道にPR出来る活動がより効果的であり、様々な取り組みがされております。

その中の一つに、学校を舞台とした「生徒と羊の命」がテーマの小説が制作され、本年の1月に出版されました。この本の全国発売記念として留萌管内の教育委員会及び高校にお願いいたしまして、小・中・高校生の留萌管内読書感想文コンクールを開催し感想文の募集をしています。

これらの企画された取り組みを携えて、教育振興会、遠別農業高等学校、教育委員会が連携を取りながら、留萌管内、宗谷管内、札幌方面等を重点的に学校訪問し、生徒確保に全力で取り組んでまいります。

平成23年 9月議会定例会行政報告

教育委員会

英語指導助手の配置について

本年度から小学校で実施された新しい学習指導要領では、小学校5・6年生に英語を中心とした外国語活動が導入され、英語活動の充実を図るために授業の中で、音声やコミュニケーションを積極的に取り入れることになりました。

また、中学校では、授業時数と内容が増加され、「聞くこと」「話すこと」「読むこと」「書くこと」の四つの英語力を育成することとなります。

教育委員会といたしましては、昨年度から英語指導助手を配置し、児童生徒の外国語活動の効果的な運用を図ることに致しました。

昨年8月にクリストファー・コリンズ氏が赴任され英語の指導をしていただきましたが任用期間（1年間）満了により7月末で帰国されました。

後任の英語指導助手として8月3日に、24歳の男性でハンガリ生まれのダルトン・ポリバス氏が、カナダ ブリティッシュ コロンビア州 ケロウナ市から遠別町に着任いたしました。

ダルトン・ポリバス氏は、大学在学中に「日本語」を1年間専攻され、今まで、3回、来日されており、日本語を話すことや、聞くことが上手であります。

教育委員会に席を置き、2学期から小学校をはじめ中学校、幼児センターきらり等に出向いて英語指導を行っています。